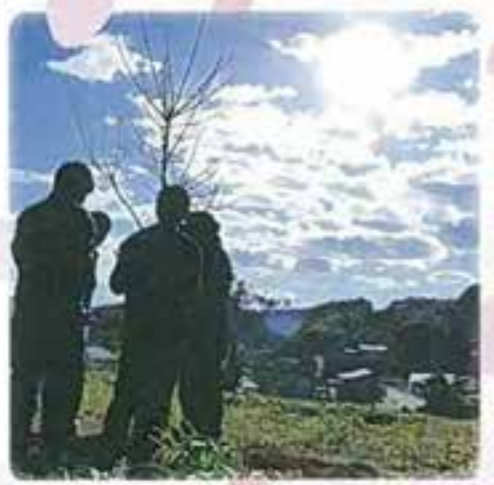


法人第八期  
2018.7 - 2019.6

# 桜ライン311 活動報告書

Sakura Line 311  
ANNUAL REPORT 2018



桜 Sakura Line 311

認定特定非営利活動法人 桜ライン311


〒029-2205 岩手県 陸前高田市 高田町字大隅93-1

高田大隅つどいの丘商店街12号

0192-47-3399 (TEL/FAX)

info@sakura-line311.org

<https://www.sakura-line311.org>

後援：  岩手県陸前高田市

# 組織概要

2019年6月末現在

正式名称 認定特定非営利活動法人 桜ライン311  
 代表理事 岡本 翔馬  
 設立 2011年10月16日  
 法人格取得 2012年 5月 1日  
 認定NPO法人取得 2014年 5月 1日

役員

代表理事	岡本 翔馬
副代表理事	伊勢 友紀 中井 勝義
理事	中山 大輔 松田 恵美子 東平 享浩 小川 光一
監事	石井 宏明 在間 文康
事務局長	佐々木 良麻
事務局スタッフ	佐々木 正也 矢作 彩子

受賞歴

2012年	一般財団法人日本ファッション協会 日本クリエイション賞
2014年	公益財団法人日本デザイン振興会 GOOD DESIGN AWARD 2014 金賞
2015年	一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会 第1回ジャパン・レジリエンス・アワード優秀賞
2016年	公益財団法人ソロプチミスト日本財団 社会ボランティア賞
2017年	国土交通省手づくり郷土(ふるさと)賞 一般部門グランプリ
2017年	公益財団法人日本さくらの会 平成29年度さくら功労賞
2017年	「東北みらい創りサマースクール」実行委員会 第6回東北みらい賞
2018年	株式会社毎日新聞社 第7回「地球未来賞」クボタ賞
2018年	吉野正芳復興大臣より感謝状 授与



# 会計報告

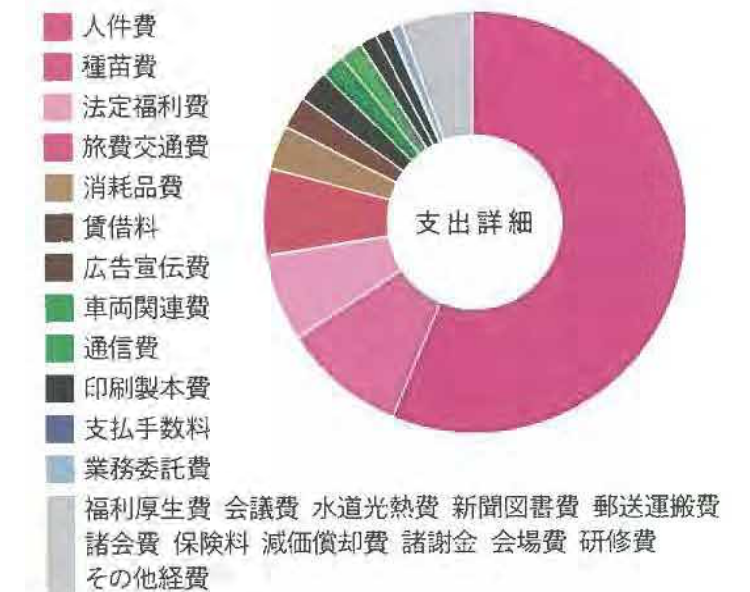
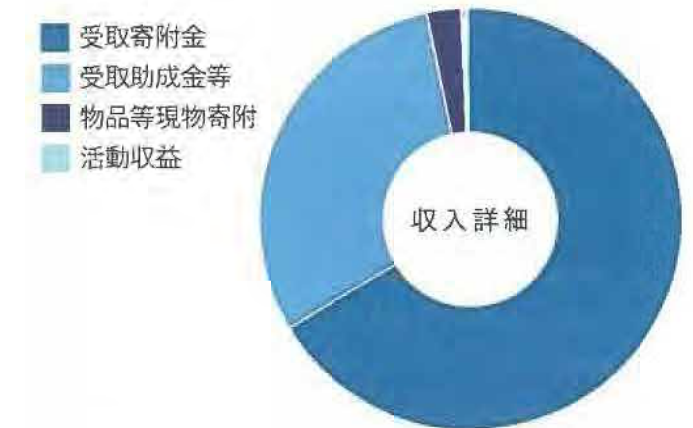
認定特定非営利活動法人桜ライン311 2018年度会計報告

【事業期間】 2018年7月1日より2019年6月30日まで

総 額	
前期現金預金等繰越額	24,790,513
当期収入総額	35,003,604
当期支出総額	32,516,377
今期現金預金等繰越額	27,277,740

収入詳細	
受取会費	0
受取寄附金	23,246,972
物品等現物寄附	904,010
受取助成金等	10,643,885
活動収益	177,791
受取利息	46
雑収入	30,900
合計	35,003,604

支出詳細	
人件費	18,335,250
法定福利費	2,197,084
福利厚生費	108,728
広告宣伝費	786,240
会議費	275,740
旅費交通費	2,157,273
通信費	559,598
消耗品費	1,100,640
水道光熱費	70,024
新聞図書費	11,087
郵送運搬費	246,079
諸会費	138,580
支払手数料	380,451
車両関連費	621,688
賃借料	800,332
保険料	26,190
減価償却費	185,764
諸謝金	147,000
印刷製本費	412,557
会場費	39,349
種苗費	3,055,544
研修費	226,040
業務委託費	318,550
その他経費	316,589
特定資産積立金	0
合計	32,516,377



桜ライン311活動基金	
前期繰越特定資産	93,032,067
受取利子	786
今期特定資産積立	0
今期特定資産総額	93,032,853

※ 桜ライン311活動基金：  
 桜ライン311各事業への将来利用を目的として、理事会にて積立/取崩し/管理される基金です。尚、当基金は100%事業への使用となります。  
 ※ 詳細な事業報告等書類につきましては桜ライン311の団体HPよりダウンロード可能になっております。またダウンロード可能な各諸表は、「認定NPO法人等の情報公開」に基づき、「活動報告書、活動計算書、貸借対照表、財産目録、注記事業別経費の状況」の5点です。ご希望いただければこちらから印刷してお送りいたしますので事務局までご連絡ください。

# 毎月定額寄附制度 マンスリーサポーター

桜ライン311では、“桜の育て親”になってくれる方を募集しています。

マンスリーサポーターは、クレジットカードを使った寄附制度です。毎月、自分で決めた金額が自動で引き落とされるシステムのため、簡単に継続的な寄附ができるようになっています。

サポーターの方には、サポーター限定の桜ライン311ニュースレター（年2回）と、活動報告書（年1回）をお届けしています。変わりゆく陸前高田のまちと、桜ラインの活動が身近に感じられる、情報満載の内容です。

また、特典としてあなただけのオリジナル会員証を発行しています。

(3,000円/月)  
1日 **100円** でできること

桜の苗木1本(3mサイズ)を植樹し、1年間守ることができます。

(6,000円/月)  
1日 **200円** でできること

学校植樹会を1回開催することができます。(3本植樹の場合)

※金額は任意での設定も可能です。

お手続きはインターネットからとなります

<https://www.sakura-line311.org/supporter>

いただいたご寄附は上記内容だけでなく、苗木育成管理などの植樹事業や、講演を含む普及・啓発事業など、団体の事業運営のために使用いたします。

認定NPO法人制度に伴い、マンスリーサポーターは税控除の対象となります。(最大50%の減税対象)ご寄附の領収書は、毎年1月、前年の1月から12月までの期間を対象としてまとめ、年3回発行いたします。

マンスリーサポーターの方のみ、個人のお名前を年間の活動報告書に掲載させていただきます。(希望者のみ)

一般のご寄附は、口座振込等にて承っております。詳しくはHPをご覧ください。



高石 祐次 様

映画「あの街に桜が咲けば」で桜ライン311を知り、マンスリーサポーターから苗木寄附、植樹会へと深入り(笑)。活動との関わりを通じて、自らも「災害への備え」を始めるとともに「未来の命を救えれば」と願い、陸前高田にも故郷を持たた美味しさを味わっています。息の長い活動です。皆さんの力で支えていきましょう。



山本 清美 様

震災年の陸前高田震災ボランティアをきっかけに、津波到達ラインを心に刻む記憶こと桜ラインに賛同し、毎年岡山から参加し早や9年を迎えようとしています。今では私の中では第二の故郷のような感慨深い思いです。参加するたび桜ライン参加者との絆も深まり、少しずつ未来に向け変わりゆく陸前高田と桜を見るのが楽しみです。



矢作町出身(東京都在住)

鈴木 ミヤ子 様

地権者

桜を植えて二度目の花が綺麗に咲きました。半年は高田で暮らしていますが枝の剪定や鹿対策などの相談をどの方も優しく心穏やかな会話でも私は幸福な気持ちになります。辛く悲しい事があったけど、皆が懸命に努力し現在があり、感謝以外の言葉はみつかりません。どんなに離れていてもふる里は大切です。子供達が安心して暮らせる町になり、いつか桜の下でゴザ敷き語り合える日を楽しみに暮らします。



気仙町

松田 弘恵 様

地権者

震災後、ずっと植えたいと思っていた桜の木を昨年、植えていただき感謝しております。急な斜面は草刈りや伐採等、作業が大変。もっと早くに植えればよかったと後悔しました。桜の懸命な命が花開くことを願って、これから見守っていきたく思います。植木の仕事をしていた亡き祖父もきっと喜んでくれることでしょう。



高田町

高澤 公省 様

地権者

桜のラインは、その地区の復興の進捗の証でもあります。今年、高田町内にそのラインの一部がようやく描かれました。感慨深く言葉が見つかりませんでした。このラインの桜は、特別な思いが込められた桜です。壮大な構想は今や「大願」となっています。成就の時まで、コツコツ歩みを進めて頂きたい。



小友町

藤田 敦様

地権者

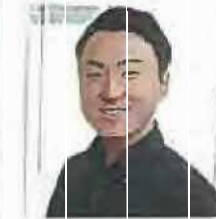
震災から8年が過ぎ仕事、生活も戻りつつ桜ラインからのお声かけにより植樹する事ができました。スタッフ、サポーターの方々には山の急斜面での活動本当にお疲れ様でした。植樹した桜が3年後5年後に咲く頃には関係者の方々、家族と共に花見が出来たらと思っています。枝垂れ桜の手入れは大変とは思いますが引き続きお願いします。



小友町

岸 浩子 様

過去3回植樹会に参加しました。日本中からこの春には海外からの参加者もいました。津波から8年、今だに篤く心を寄せて下さり感謝です。開花の頃地域を歩いてみて桜のラインを見つけ皆様の思いに共感しました。これから高田市民が桜の守り人になっていかなければ、まず私の次なる課題は草刈り参加です。満開の桜を思い……。合掌



熊谷珈琲店

店主 熊谷 幸 様

まだ陸前高田に店舗を構える前、コーヒーの出張販売をさせていただいたことがご縁で、以後、植樹会の際にはいつも声をかけていただいています。桜ライン311さんを通じて、陸前高田にご支援下さる皆さまにも、美味しいコーヒーを届けられる機会を頂けていること、感謝しています。



高田町

菊池 純一 様

「私たちは悔しいんです」震災のDNAを次世代に伝える。災害に強い町を作るその想いで参加した植樹。人はどれほどの困難に出会っても、それでも前を向き、心を合わせて生きていく、大きな力を持っている。高田で生まれた教訓や知恵を共有し外に向け発信し市民が誇りを持ち世界に貢献できる街になることを願っています。

## 支援者さまからの声

地元で活動を支えてくださる皆さま  
地権者の皆さま



少林寺拳法復興支援陸前高田チーム  
畠山 誠 様

桜ライン311の活動を知り、その活動に共感し、初回植樹会から炊き出し支援を行うことになりました。あれから9年目となりましたが、目標17000本のうちやっと1500本を植えたところとか。豚汁の炊き出し支援に限らず、植樹予定地の整地、植樹後の整備など植樹数が増えればそれだけ後の手入れ作業も増えます。スタッフの気持ちになったつもりで活動を陰ながら支援し続けようと思います。



岩手県立大東高等学校  
教諭 佐々木 敬之 様

情報ビジネス科が植樹に参加し7年目を迎え、生徒達は引き継ぐべき重要な伝統行事と捉えております。歳月は人の記憶を薄れさせますが、自分たちが植樹し成長した桜を見ることで津波被害の悲惨さを思い起こす事が出来ます。生徒達はスタッフの皆さんと桜が大きく育つ30年後、この場所に再び集まると約束しました。桜ライン311は津波被害を忘れず後世に伝えるために、とても意義のある活動だと感じます。



平泉町  
菅原 正義 様

始めは「ともだちカレー」の一員として支援して来ましたが、仮設住宅から復興公営住宅に移り支援回数が減り始めた頃に植樹会のことを知り今では毎回参加させて頂いております。植えることの意義はもちろんの事で多くの出会いがあり、これからも多くの皆さんにお会いできるのを楽しみにできる限り参加したいと思います。



Twitter Japan 株式会社 様

「あなたのツイートが誰かの力になる」というメッセージと共に、ハッシュタグ「#桜」付きのツイートの合計数に応じた金額を活動資金として寄付する「#桜 for Good プロジェクト」を実施いたしました。Twitterを利用されている多くの方々と一緒に、避難のラインを「#桜」でつなぐ桜ライン311の活動を応援しています！



東北さくらライブプロジェクト  
共同代表 澤向 美希 様

昨秋、桜ライン311のみなさんと一緒に小田和正さん全国ツアー・盛岡公演にて活動紹介を行った翌日、短い時間でしたが陸前高田で草刈り体験をさせていただきました。桜1本1本のメンテナンスがいかに大変であるかを身を持って知り、急の長い応援、そのための情報発信の重要性を再認識しました。これからもできることを続けていきます。



ジャーナリスト  
佐藤 慧 様

記憶を語り継ぐということは、未来を生きる命に知恵を託すということ。同じ悲劇を繰り返さないように、よりよい世界を築いていけるように、生きているという喜びに感謝できるように。ときに猛威を振るう海も、本当は命を育むゆりかごです。いつの日か桜並木を歩きながら、穏やかな海を眺められることを楽しみにしています。



リコー社会貢献クラブ・FreeWill 様

リコーグループ社員で構成しているリコー社会貢献クラブ・FreeWillは、桜ライン311の想いに賛同して2013年から継続して植樹会に参加し、2016年からは運営スタッフとしてもボランティア参加させて頂いております。今後も桜ライン311の活動を通じて陸前高田の復興を応援させていただきたいと考えています。



株式会社東急百貨店 取締役  
専務執行役員 営業本部長 上根 弘之 様

桜ライン311様との取組は今年で8回目となり、植樹された桜の木々が徐々にラインを形作ってきていることを大変嬉しく感じております。東急百貨店は、チャリティグッズの販売を通して、震災が風化することの無いよう、桜ライン311様の活動を世の中に伝えるとともに、より多くのお客様の防災意識が高まるようお手伝いをして参ります。



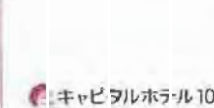
株式会社ダイナム  
代表取締役 藤本 達司 様

ダイナムは全国のパチンコホールに来店くださるお客様と共に、東日本大震災の復興支援に取り組んでいます。桜ライン311の活動趣旨に賛同し、今後も「街と生きるパチンコ」として震災が風化することのないよう桜が育つのを見守っていきます。



ユニリーバ・ジャパン 様

「後世に伝えたい」という理念に感銘を受け、植樹活動、および、自社製品の売上の一部が寄付されるという形で支援を続けています。消費者の皆さまにもお買い物を通じて気軽に社会貢献していただける機会を提供できることに、大きな価値を感じています。今後も活動を応援させていただきます。また、新しい取り組みなども実施していきたいと思っております。



キャピタルホテル1000 株式会社  
代表取締役社長 松田 修一 様

津波最大到達地点170kmにも及ぶラインに17,000本もの桜を植える計画は、極めて壮大なものです。地域内外の方々と地道に取り組まれておられることは、必ずや後世の方々への何物にも代えがたいメッセージとなって実を結ぶに違いありません。今年で累計1,500本突破。継続は力なり、微力ですが今後も協力させていただきます。

支援者さまからの声

活動を支えてくださる皆さま



陸前高田市長  
戸羽 太 様

桜ライン311の皆様には、これまで大勢のボランティアの皆様と交流を育み、震災の教訓を後世に伝えるための植樹活動、防災意識を高める普及啓発に継続して取り組んでいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。桜がたなご全国の皆様との「ご縁」が一層広がり、交流がさらに深まることを心から祈念いたします。



名古屋市議会ガーデニングクラブ会長  
名古屋市議員 ふじた 和秀 様

震災から8年間、議会の仲間と市役所仮庁舎へ花を送り続け、両市の中学生交流のテーマソング「未来への翼」を応援し、そして、桜ライン311と出会い、仲間や息子と植樹にも参加してきました。私の次は、息子たちが次世代へ繋いでくれると信じ、震災の教訓を語り継ぐ、未来へのプロジェクト「桜ライン311」を応援し続けます。



株式会社 JNE COMPATH  
代表取締役社長 CEO 早川 礼 様

「桜ライン311応援マップ」として、デジタル地図上に桜の植樹場所や標高を表現しています。2011年11月より月単位で見られるみなさんの活動の軌跡には、全てにドラマと伝承の価値が詰まっていると感じています。社名はマピオンから JNE COMPATHへ変わりましたが、今後も変わらず応援させていただきます。



# 支援企業・団体およびマンスリーサポーター

## 支援企業・団体

一般社団法人 RCF  
 青森県立弘前高等学校  
 旭川ユネスコ協会  
 足利市民活動センター  
 飯田市立飯田東中学校 学友会  
 郁文館夢学園・郁文館高等学校  
 居酒屋 膳  
 一般財団法人石川県市町村職員等ライフプラン協会  
 市川若宮道院  
 一関市立桜町中学校  
 いつか君の花明かりには製作委員会  
 一本松茶屋  
 伊東文具店  
 いぬい接骨院  
 株式会社 岩手県北観光  
 岩手県立大東高等学校  
 岩手県立杜陵高等学校  
 岩手県立盛岡青松支援学校 中学部  
 岩手県立住田高等学校  
 いわて生活協同組合  
 国立大学法人 岩手大学  
 いわてのいいイロ発信プロジェクト  
 宇田森  
 エイブルネットワーク小牧店 株式会社アルヴェスタ  
 株式会社 edu edge  
 愛媛県立今治北高等学校 家庭クラブ  
 大口さくらメイド  
 大蔵頼朝桜道の会  
 大阪教育大学 FILM  
 大阪よどがわ市民生活協同組合  
 岡崎桜まつり太鼓フェスティバル実行委員会  
 おかし工房 木村屋  
 お菓子司 東海堂  
 オカムラ労働組合  
 お茶の水女子大学 徽音祭実行委員会  
 お花見茶会有志一同  
 オムロンソーシャルソリューションズ労働組合  
 オリジナルショップなかのや  
 音楽室さくら咲 la  
 kanakeno  
 株式会社 カネシロ

Café Yuki Grandpa  
 カラーパーティーウエスト事務局  
 川の駅よこた  
 関西大学学生団体 KUMC  
 関西大学学生団体 KUMC OB  
 顔晴っぺ!とうほく元気プロジェクト  
 喜多方ラーメン坂内  
 浅草店、恵比寿店、大塚店、金沢文庫店、  
 川口東口店、川崎東田店、木更津店、京橋店、  
 小岩店、更埴店、五反田駅前店、笹塚店、  
 湘南寒川店、住吉店、蘇我店、立川店、  
 調布店、東部町店、戸越銀座店、西蒲田店、  
 西五反田店、練馬中央店、練馬店、八王子店、  
 船橋店、三島店、水戸東店、吉田店、  
 四日市駅前店、四日市店  
 北名古屋311 私たちはあの日を忘れない  
 きのくに国際高等専修学校  
 特定非営利活動法人ぎふ長良川走ろう会  
 キャピタルホテル1000株式会社  
 共愛学園こども園  
 京都市立大淀中学校  
 清瀬・久留米民主商工会  
 久慈市立山形小学校  
 株式会社 グッドウ  
 熊谷珈琲店  
 公文教育研究会 日本語チーム  
 グランドハイアット東京  
 株式会社 グリーバル  
 桑沢デザイン研究所 同窓会  
 特定非営利活動法人 KIプロジェクト  
 ケセンキョードーボックス  
 江南あおむしの会  
 江南市民文化会館  
 ゴールデンピーカン株式会社  
 国際ソロプチミスト新潟-西  
 国土交通省東北地方整備局  
 (復興祈念公園等ネットワーク協議会)  
 株式会社 コストソリューション  
 琴似ポプラうたう会  
 KOHARU亭 たいちろう・けいじろう  
 坂部健康院  
 さくららいいん  
 桜ライン311 上田  
 桜ライン3.11in絆

桜ライン3.11in絆実行委員会  
 桜ライン311に勝手に繋がる大阪  
 桜ライン311 陸前高田の桜を見守る会有志  
 3.11さよなら原発!震災復興支援 in岡崎  
 産直はまなす  
 株式会社 シーズンズ  
 JALまね労働組合 やすぎ分会  
 株式会社 JTBコミュニケーションデザイン  
 市民生活協同組合 ならコープ  
 ジャーナリスト佐藤慧  
 ジャミンアイテム購入者  
 少林寺拳法復興支援 陸前高田チーム  
 食堂かもん  
 白根歯科医院  
 シンガー 雪音  
 シンワ 株式会社  
 スガカネ 株式会社  
 株式会社 STYZ  
 株式会社 ステディスタディ  
 生活協同組合おおさかパルコープ  
 清泉インターナショナル学園  
 一般社団法人 清流会  
 一般社団法人 SAVE TAKATA  
 全トヨタ販売労働組合連合会  
 全トヨタ労働組合連合会  
 株式会社 セントラル工業  
 曹洞宗 岩手県宗務所婦人会  
 有限会社 ソラ  
 株式会社 ダイナムジャパンホールディングス  
 第21回 猪股さんちのコンサート  
 大和証券株式会社  
 高萩さくらの会 有志一同  
 滝沢市立柳沢中学校  
 玉乃湯  
 タヤマスタジオ株式会社  
 チームはしごや  
 チャリティイベント はちどりのひとしづく  
 中華食堂熊谷  
 特定非営利活動法人中部リサイクル運動市民の会  
 Twitter Japan株式会社  
 株式会社 テレビ岩手  
 デンソー岩手労働組合  
 法人デンソー関労協

## マンスリーサポーター

浅葉正美 岩崎政孝 小幡恵美  
 安曇野クロリン 岩田達明 音楽室さくら咲 la  
 天田輔 及川登美江 kazue omoto  
 荒川夏実 太田海 金澤正浩  
 石川洋一 尾島奈緒子 金光結香

後藤良平 塩田哲男 土山隆宏・明代  
 小針光雄 生源寺隆 徳田佳宏  
 齊藤宏樹 鈴木佐知子 板木由香  
 阪上浩 鈴木自動車株式会社 内藤宏章  
 榊原由紀子 鈴木正子 西山智彦  
 佐々木信秋 高石祐次 信昭田加  
 笹野絹代 Team29一同 原田亮

皆さまのあたたかい支えなくして、活動を続けていくことはできませんでした。心より感謝申し上げます。

伝馬・おたがいさま  
 株式会社東急百貨店  
 東京書籍株式会社  
 東北さくらライブプロジェクト  
 東洋館出版社  
 遠野市遠野町第15地区自治会(民生防災部)  
 徳島県立阿南光高等学校  
 徳島県立小松島高等学校  
 徳島県立小松島西高等学校  
 徳島県立徳島北高等学校  
 Toda Music wonderland concert  
 東武トップツアー がんばれ陸高応援隊  
 豊田市立小原中学校  
 豊田市教職員組合青年部  
 トヨタ部品  
 トヨタ部品東北共販 株式会社  
 トリオシステムプランズ株式会社  
 トレンドマイクロ株式会社  
 Don Don English  
 中北音楽教室  
 名古屋市立供米田中学校  
 名古屋市立富士中学校  
 名古屋市瑞穂区役所  
 名古屋市瑞穂区役所 募金箱  
 名古屋瑞穂ライオンズクラブ  
 名古屋ライオンズクラブ  
 奈良佐保川桜まつり燈火会 実行委員会  
 公益社団法人24時間テレビチャリティー委員会  
 西和賀町ボランティア連絡協議会  
 二戸市教育委員会事務局  
 特定非営利活動法人日本NPOセンター  
 特定非営利活動法人日本全国志士協義会  
 日本ファンドレイジング協会 東北チャプター  
 日本民話の会  
 日本郵便 株式会社  
 一般財団法人日本老人福祉財団  
 一般財団法人日本老人福祉財団佐倉  
 (ゆうゆうの里)  
 ニューサイクリング図書館  
 ネット花  
 農家カフェ フライバン  
 ノルディックウォーキングクラブ青梅  
 特定非営利活動法人 バクト

箱根山テラス  
 八幡平市立西根中学校  
 特定非営利活動法人  
 花と緑のまち三鷹創造協会花壇ボランティア  
 花巻市立太田小学校  
 花巻市立西南中学校  
 公益財団法人 パブリックソース財団  
 株式会社 浜島書店  
 浜松学院大学 特別チーム<きりん>  
 株式会社 バリューブックス  
 東日本大震災支援全国ネットワーク (JCN)  
 東日本大震災の教訓を安城に伝える会  
 株式会社 ビッツ  
 ヒューマン RG  
 フードカフェバー わいわい  
 フォトグラファー 野田香菜子  
 フォトジャーナリスト 安田菜津紀  
 福井県民生活協同組合  
 福井市ボランティア連絡協議会  
 福島県立ふたば未来学園高等学校 社会企業部  
 福島県立新地高等学校  
 株式会社 富士住建  
 二又復興交流センター  
 復興庁  
 フリースクール KOPPIE  
 プレーメンホームペーカリー  
 一般社団法人 プロトレ  
 ヘアーサロンディスマーニング  
 PayPal  
 pen.  
 北海道大学  
 株式会社 ホテルオークラ東京ベイ  
 ほのぼのサロン  
 ボランティアチーム ピエール  
 株式会社 ほり川  
 ホンダカーズ 姫路西網干店  
 交流施設 ほんまるの家  
 まちだ陸前高田復興支援の会  
 一般社団法人 まちにわひばりが丘  
 松阪市役所  
 Me Project  
 三浦太鼓店  
 緑のリサイクルソーシャルエコプロジェクトチーム

公益社団法人 みらいサポート石巻  
 名城大学 Book-aid  
 名鉄観光サービス労働組合  
 株式会社 麺食  
 メンバーズ いろは  
 茂原パークシネマ実行委員会  
 盛岡市社会福祉協議会  
 もりつね音楽祭 音の駅実行委員会  
 もりつね音楽事務局  
 株式会社 葉王堂  
 ハヶ岳311  
 ヤフー株式会社  
 やぶ屋  
 山形県立東桜学館高等学校 生徒会  
 大和高田市 PTA協議会  
 山梨県少林寺拳法連盟  
 株式会社 URリングージ  
 ユニリーバ・ジャパン株式会社  
 有限会社 吉野屋商会  
 ラーメン食堂 岩張楼  
 特定非営利活動法人 ライフステーション100  
 楽風打  
 株式会社 リースクル  
 特定非営利活動法人 りくカフェ  
 陸前高田市立気仙小学校  
 陸前高田市立高田第一中学校 FACE  
 陸前高田市  
 陸前高田市立米崎小学校  
 陸丸  
 リコー社会貢献クラブ・FreeWill  
 リバティタウン伊勢原管理組合「花の会」  
 竜王太鼓保存会  
 レストラン クローバー  
 若築建設株式会社 東北支部  
 ワグナー有志  
 ワコウ建設株式会社  
 和太鼓 Do-Da  
 株式会社 ONE COMPATH

原田聡子 三谷麻紀 吉永ユキ子  
 平出真 株式会社 麺食 吉原隆成  
 藤本大祐 代表取締役社長 中原誠  
 MAKIKO ASAOKA 森川千恵  
 真下行男 矢口悦子  
 松本悦子 山本清美  
 水澤千秋 横山秀

※ 敬称略、振込名をもとに掲載しています。  
 ※ 個人名は控えさせていただきます。  
 ※ 50音順にて表記  
 ※ 対象期間は第8期(2018/7/1~2019/6/30)となります。  
 ※ 寄附の多寡に関わらず協賛寄附、苗木提供、植樹会参加、ボランティア参加、  
 当団体との企画参加などを元に作成しています。  
 ※ 桜ライン311マンスリーサポーターにご加入いただき、アンケートにて記載  
 をご希望された方のみ個人名簿を掲載しています。



# 年間活動実績

2018年7月1日～2019年6月30日

2018

- 活動 インターン生受け入れ開始
- 活動 Instagram (インスタグラム) アカウント開設
- 活動 「平成30年7月豪雨募金」開始
- 活動 物による寄附の形、Syncable (シンカブル) 及び Brand Pledge (ブランドプレッジ) 運用開始
- 講演 東日本大震災支援全国ネットワーク (JCN) 主催 現地会議in東北
- 講演 久慈市立山形小学校主催復興教育 防災キャンプ

8

- 活動 2018年春の植樹状況 (ドローンによる空撮動画の公開) 撮影協力: オフィス・ふくしま
- 講演 桜ライン3.11 in 絆実行委員会主催 チャリティーコンサート
- 講演 二戸市教育委員会主催 平成30年度防災教育プログラム研修
- 活動 インターン生受け入れ終了
- 講演 トレンドマイクロ株式会社 講演、草刈りメンテナンス実施
- 講演 大阪教育大学FILM
- 講演 さのくに国際高等専修学校主催 「3.11を考える会」
- 講演 ふたば未来学園高校・福島県立新地高校による気仙沼・陸前高田視察
- 受賞 吉野正芳復興大臣より感謝状授与
- 講演 八幡平市立西根中学校 震災学習

9

- 活動 小田和正ツアー盛岡公演、東北さくらライブプロジェクト主催によるロビー展示
- 活動 「北海道胆振東部地震募金」開始
- 活動 陸前高田市立第一中学校2年生、職場体験生受け入れ
- 活動 「平成30年7月豪雨募金」送金
- 講演 公益社団法人みらいサポート石巻主催 財源ワークショップ
- 講演 花巻市立西南中学校主催 講演、草刈りメンテナンス実施

10

- 活動 桜ライン311 役員事務局の体制改編
- 講演 日本ファンドレイジング協会東北チャプター勉強会
- 講演 東日本大震災支援全国ネットワーク (JCN) 主催 現地会議 in 東京
- 活動 薬王堂主催「陸前高田 桜ライン 健康ウォーキング」
- 活動 株式会社バリューブック主催「チャリボン」買取価格10%UPキャンペーン実施
- 活動 キャピタルホテル1000 (株)「桜ライン311 応援宿泊パック」通年利用開始
- 講演 国土交通省東北地方整備局 (復興祈念公園等ネットワーク協議会) 主催 震災伝承シンポジウム「何を残し、何を伝えるか」

11

- 活動 平成29年度支援者満足調査 開始
- 植樹 岩手県立杜陵高等学校 学校植樹会
- 植樹 一関市立桜町中学校 学校植樹会
- 講演 オムロンソーシャルソリューションズ労働組合社内講演
- 植樹 秋の植樹会 (第30回)
- 活動 「インドネシア・スラウェシ島津波募金」第30回植樹会会場にて募金箱設置
- 活動 「北海道胆振東部地震募金」送金
- 植樹 秋の植樹会 (第31回)
- 活動 「インドネシア・スラウェシ島津波募金」第31回植樹会会場にて募金箱設置
- 植樹 理事植樹会
- 活動 「インドネシア・スラウェシ島津波募金」送金

12

- 講演 盛岡市社会福祉協議会主催 スタディツアー
- 活動 公益財団法人パブリックリソース財団運営オンライン寄付サイト 「Give One (ギブワン)」にて取り扱い開始

1

- 活動 苗木のお引越し 開始
- 活動 ユニリーバ・ジャパン株式会社主催「LUX SAKURA DREAM【ラックスルミニークサクラドリーム】」



2019

- 講演 東日本大震災の教訓を安城に伝える会主催「東日本大震災後のまちづくりから学ぶ」
- 活動 「社会貢献を身近にするWEBメディア」きふるの運用開始
- 活動 苗木のお引越しボランティア 募集終了

2

- 活動 東急百貨店主催「咲かせよう。桜ライン。」チャリティプロジェクト販売開始
- 活動 有限会社ソラ 桜の刻印で応援しよう!【桜ライン311東北支援キャンペーン】開催
- 植樹 陸前高田市立米崎小学校 学校植樹会

3

- 植樹 陸前高田市立気仙小学校 学校植樹会
- 活動 株式会社ONE COMPATH支援による「桜ライン311応援マップ」更新
- 講演 花巻市立太田小学校主催 復興授業
- 活動 タヤマスタジオ株式会社 桜ライン311×kanakeno コラボ南部鉄瓶発売
- 活動 いわてのいいイロ発信プロジェクトで万年筆インク「陸前高田ゆめ Blossom」販売開始
- 講演 滝沢市立柳沢中学校主催 復興授業
- 植樹 春の植樹会 (第32回)
- 講演 江南市文化会館主催 江南市東日本復興支援事業
- 活動 Twitter Japan コラボレーション「#桜」開始
- 植樹 岩手県立大東高等学校 学校植樹会
- 植樹 春の植樹会 (第33回)
- 植樹 理事植樹会
- 活動 「モザンビーク サイクロン募金」開始

4

- 活動 小学理科編教科書 東京書籍株式会社より出版
- 活動 「道徳ノート1年」株式会社浜島書店 東京書籍版
- 活動 認定特定非営利活動法人の認定期間更新

5

- 活動 Twitter Japan コラボレーション「#桜」終了
- 活動 桜ライン311 事務所移転
- 活動 夏の草刈作業参加者募集開始
- 活動 「モザンビーク サイクロン募金」送金
- 講演 岩手大学「地域おこし論」講義

6

- 活動 株式会社ONE COMPATH支援による「桜ライン311応援マップ」更新
- 活動 北海道大学 辻智子寄稿 「東日本大震災と社会教育」 東洋館出版社より出版



## メディア掲載一覧

テレビ

- 2018年 10月 4日 テレビ岩手
- 11月17日 NHK盛岡放送
- 11月18日 NHK盛岡放送
- 11月24日 テレビ岩手
- 2019年 2月27日 テレビ岩手
- 2月27日 NHK盛岡放送
- 3月 5日 めんこいテレビ
- 3月 6日 花巻ケーブルテレビ
- 3月12日 めんこいテレビ
- 3月19日 めんこいテレビ
- 3月26日 IBC
- 5月 1日 NHK(BS)
- 6月 1日 フジテレビ

ラジオ

- 2018年 7月12日 FMねまらいん「～気仙の情報発信!～」
- 11月30日 南海放送ラジオ ニュースな時間「愛媛からつながレター」
- 2019年 2月 7日 藤沢エフエム放送株式会社 レディオ湘南「防災ネットワーク」
- 3月10日 奥州FM「311特別番組」
- 3月11日 J-WAVE「STEP ONE」
- 4月 7日 FM岩手「ミレニアルウインド」
- 4月10日 FMPORT (新潟県)「MORNIG GATE」

雑誌・その他

- 2018年 7月 5日 株式会社ダイナムジャパンホールディングスグループ通信Vol.11
- 7月18日 しょうわしる7-8号 (昭和シェル石油株式会社)
- 8月29日 盛岡中央ロータリークラブ創立30周年記念誌
- 11月19日 岩手からの復興だより ぱるタイム
- 2019年 4月 1日 東京書籍株式会社 小学理科編教科書
- 4月 1日 株式会社浜島書店 道徳ノート1年 東京書籍版
- 6月 1日 東洋館出版社「東日本大震災と社会教育」

WEB

- 2019年 4月27日 読売新聞WEB版

新聞

- 2018年 7月14日 岩手日報
- 7月14日 東海新報社
- 9月 4日 東海新報社
- 9月20日 東海新報社
- 9月21日 毎日新聞
- 10月23日 河北新報
- 11月21日 岩手日報
- 12月 6日 岩手日報
- 12月16日 河北新報
- 2019年 2月28日 岩手日報
- 3月 4日 日本教育新聞社
- 3月 6日 岩手日日新聞社
- 3月11日 日刊岩手建設工場新聞社
- 3月11日 朝日新聞
- 3月12日 東海新報社
- 4月 6日 毎日新聞 (奈良県版)
- 4月11日 読売新聞

# 未来に向けた新たな一歩

本年度の事務局体制においては、二点大きな変更がありました。一つは、これまで常務理事を務めていた伊勢が副代表理事に就任しました。前副代表理事の東平が健康不安から辞職を申し出たことにより、交代人事として伊勢が副代表理事に就任することとなりました。

もう一つは、代表理事である岡本が兼務していた事務局長職を分離し、佐々木良麻が新たに事務局長として就任いたしました。事務局長職の分職については、二〇一七年から計画しており、大和証券フェニックスジャパン・プログラムより助成を受け、研修・視察を通して人材育成を実施してまいりました。

また、本年度は事務所の移転も行いました。二〇二二年より仮設商店街である高田大隅つどいの丘商店街内にある一般社団法人SAVE TAKATAさま事務所をシェアオフィスとして間借りし活動してまいりましたが、同法人の事業拡張と当団体の将来的な事務局の拡大見込みから、単独事務所への移転を行いました。今後は、ボランティアでお越しになる方や、地元住民の方が気軽に立ち寄りいただける空間として、市民活動の拠点になっていけばと考えております。

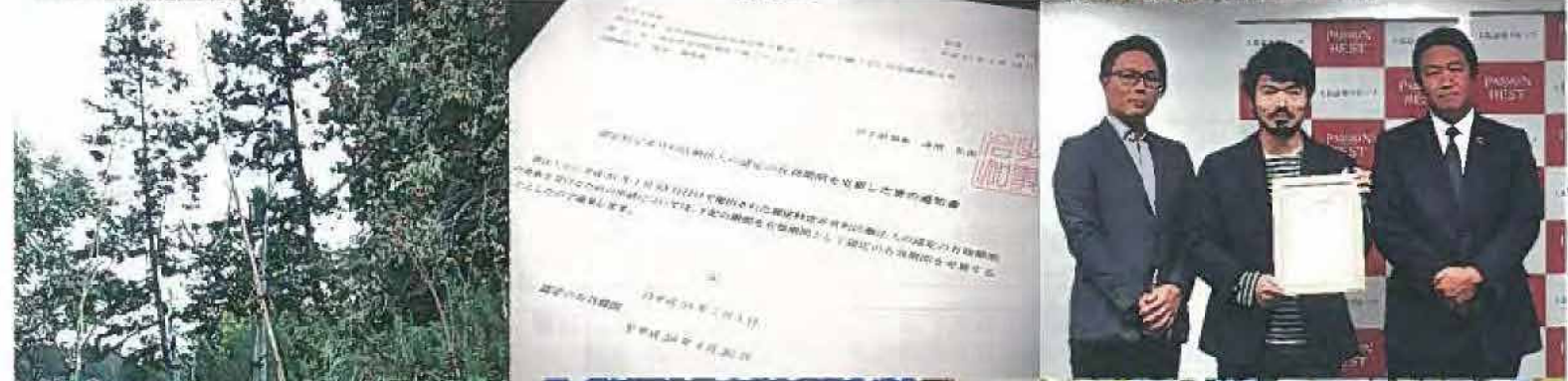
二〇一八年九月には、公益社団法人24時間テレビチャリティー委員会さまより24時間テレビで集まった募金からご寄附を賜り、団体倉庫を新調いたしました。これに合わせて設置した土地に圃場を整備しました。

組織においても、設備投資においても、今期は「一七〇〇本の植樹」「災害で命を落とす悲しみを繰り返さない社会の実現」という長期に渡る目標実現に向けた体制整備の年となりました。

長期を見越した活動という点において、皆さまから頂くご寄附につきましても、「より手軽に」「より多くの手法で」皆さまのお気持ちを後世への伝承活動へと繋げられるよう、取り組みをまいりました。

今期の取り組みとしては、時代にあわせた寄附の形を模索し、いらなくなった衣類などのブランド品を買い取りその買取価格が寄附となる Syncable (シンカブル) や Brand Pledge (ブランドプレッジ) を開始、オンライン寄付サイト Give One (ギフワン) や Webメディア「きふる」などを利用したインターネットでの支援しやすい環境を整えてきました。今後、広くこれらのサービスをご利用いただけるよう、周知に注力していきたいと考えております。

また、税制上の優遇措置として、当団体は二〇一四年五月に取得した認定資格の更新の年にあたり手続きを進めてまいりました。県庁へ届け出たのち、実態確認として二月に県庁が当団体事務所へ来訪し活動実態の把握や経理内容の確認等行ない、無事四月に認定継続の通知が届きました。引き続き二〇二四年四月三〇日まで、認定特定非営利活動法人として活動してまいります。



新たな伝承のカたち

政策提言事業は桜並木をまちづくり計画の一部として活用してもらえよう提言し、事業実施していくことを目的とした事業です。桜並木を育てていくなかで文化となり、歴史となり、桜と街と人が支えあうような未来を目指しています。

陸前高田市は今も復興工事が日々続いています。復興における最優先は「住民の生活再建」であり、祈念公園や街の緑地等はその先の話ということになります。それは当然のことではあります。一方で復興した後に検討しては遅きに失する可能性があることも事実です。当団体では、二〇一四年からの祈念公園設置に関わる有識者委員会への参加を中心に継続的にまちづくりへの提言をおこなってまいりました。

二〇一九年三月には中心市街地の高上げ地に初めて植樹を実施。これは陸前高田市を初め復興工事に携わる工事関係者の皆さまに、緑地整備部分の許可を頂き実施できたものです。このことは植樹事業においても、政策提言事業においても一つの成果です。とても嬉しく思っています。

また中心市街地以外では高田松原津波復興祈念公園内の道の駅「高田松原」、同公園内の震災津波伝承施設「通称…いわてTSUNAMIメモリアル」が二〇一九年九月二十二日にオープンしました。震災から八年半、中心となる施設の整備が完了となりました。しかしその周辺の整備は今後も続きます。広大な敷地なので当然と言えば当然ですが、段階的に供用が開始さ

れる見込みです。その整備に関して桜の育成が可能か試験植栽のお手伝いをさせて頂くことになりました。現地を拝見させていただきましたが、公園整備にあたって安定性の観点から土壌を礫(れき)に差し替えている部分も多く、植樹が可能だとしても育成面で懸念があります。育成のために土の入れ替えをどの程度行う必要があるか、定期的にチェックする予定です。

また祈念公園全体と中心市街を含めた桜の植樹について、具体的な検討を関係各位と始めています。中心市街の緑地化を検討する上で、桜を一つの軸に据えることはできないかとのご相談があったことがそのきっかけです。私たちの活動趣旨は、震災の風化防止と伝承が目的です。祈念公園も同じ趣旨を目的としており、親和性は高いですし、陸前高田への貢献としても、できるだけお応えしたいと思っています。そのように行政からお声がけ頂けること自体が、継続の力になっていくと嬉しく思います。とはいえ実施については主目的や意義的なことだけではなく、事業・組織体制についても現在の桜ライン311とは予算を切り分ける必要があると思っています。多くの皆さまの共感があるからこそ、私たちは事業を継続できています。その信頼を損なうことなく構築できるように本年も展開してまいります。



01) ~ 03) 国営高田松原津波復興祈念公園内工事状況視察 画像提供：岩手県  
04) ~ 08) 震災伝承シンポジウムにて登壇及び会場の様子





自らの避難が、命を守る

当団体の植樹の事業自体がその意味も持っておりませんが、一人でも多くの皆さまに震災の教訓をお伝えしたい。その思いから全国での講演を実施しています。陸前高田にお越しになるのが難しい方や植樹事業等への入り口としても大事な普及啓発事業の一つの柱となっています。今期は合計二五回、ご来場者は一八〇七名となりました。ご依頼を頂きました皆さまに、心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

「災害があつたときに生き残れる人になってほしい。」このメッセージを伝えることが普及啓発事業の最終の目的です。人的被害全てをゼロにすることは難しいことですが、早期避難を心掛けてもらえるだけでも大きく軽減されます。講演でも必ずお話をしていますが、減災を考えた時の最も大きな課題は私たち自身です。どんな優れた防災技術や観測技術があつても、最後の瞬間には私たちが避難しなければ意味がありません。二〇一九年三月、内閣府から避難勧告等に関するガイドラインの改定が発表されました。これは平成三〇年七月豪雨を受けて改定されたもので、防災情報が五段階のレベルによる通知になりました。こちらはよく報道されご存知の方も多いかと思いますが、同時に「自らの命は自らが守る」意識の徹底や地域の災害リスクととるべき避難行動等の周知」も定められています。避難は誰かがやってくれるものではありません。自分自身が率先避難者になつてもらえるように今後多くの方にお伝えしていきます。是非お気軽にご相談いただければと思います。

上記のようなお話を東日本大震災の経験を交えてお伝えすることが基本になります。今年も事業を通じたまちづくりやNPOとしての運営等にも触れる機会が多かった一年となりました。桜によって震災の伝承を目指すということは、ただ被災を語ればよいということではないと考えています。私たちの事業は植樹の期間として二〇年、さらに植えた桜の管理を含めればほぼ永続的に続いていく事業です。その点で計画の実現性や発展性をどのように意識し、変化する外的要因に対応するのか。そういった点にも意識を持つと、必然的にまちづくりの観点や長期に運用可能な組織体制の構築が必要になってきます。

最後になりますが八期においても緊急人道支援を目的とした募金活動を実施いたしました。二〇一八年に発生した「平成三〇年七月豪雨」、二〇一九年に発生した「北海道胆振東部地震」「インドネシア・スラウェシ島津波」、二〇一九年に発生した「モザンビークサイクロン」の四回の実施となりました。当法人の緊急人道支援口座にご入金を頂きました皆さま、市内の募金箱設置にご協力を頂きました事業者の皆さま、募金をしてくださった全ての方に御礼を申し上げます。



01) 植樹前に講演を聴く生徒たち 02) 植樹会に運営スタッフとして参加した地元中学生 03) 生徒たちとともに植樹を行なった  
04) 斜面での植樹も、パケツリレーのように資材を運搬 05) 地権者さまが語る津波の様子を真剣に聞き入る生徒たち

義援金募集

平成30年7月豪雨に際した義援金募集	
発 生	2018年 7月 8日
実施期間	2018年 7月 9日 ~ 9月13日
募集総額	287,964円
送 金 先	愛媛県・岡山県・広島県

北海道胆振東部地震に際した義援金募集	
発 生	2018年 9月 6日
実施期間	2018年 9月10日 ~ 11月11日
募集総額	98,382円
送 金 先	北海道厚真町

モザンビークサイクロンに際した義援金募集	
発 生	2019年 3月14日
実施期間	2019年 3月15日 ~ 5月10日
募集総額	26,971円
送 金 先	日本赤十字社

インドネシアスラウェシ島津波に際して義援金募集	
発 生	2018年 9月28日
実施期間	2018年11月17日・24日
募集総額	14,887円
送 金 先	日本赤十字社スラウェシ島支援専門窓口

募金活動にご協力頂いた店舗一覧 (50音順)

居酒屋 膳	キャピタルホテル1000株式会社	中華食堂熊谷	民宿志田
伊東文具店	陸前高田グローバルキャンパス	お菓子司 東海堂	やぶ屋
ラーメン食堂 岩張楼	熊谷珈琲店	農家カフェ フライパン	Café Yuki Grandpa
おかし工房 木村屋	ケセンキョードーボックス	箱根山テラス	りくカフェ
カフェフードバー わいわい	産直はまなす	二又復興交流センター	陸前高田地域振興株式会社
川の駅よこた	食堂 かもん	ほんまるの家	陸丸
			レストラン クローバー



地元住民とのつながりを 地域外の皆さまへ

二〇二一年十一月に陸前高田市内の津波到達点に三〇本の桜を植樹したところから当団体の活動はスタートしました。以来、継続して春と秋に植樹会を開催し、二〇一九年六月末日時点で市内三二三箇所に一五七七本の桜を植樹することができました。ご参加いただいた方の累計人数は五八三三名にもなります。いつも支えて下さっている支援者の皆さま、陸前高田市内の皆さまに感謝の気持ちを忘れず、今後もご期待に沿えるよう着実にステップを踏んでいきたいと思っております。

未だに市内各所で復興工事が続いているなか、市内中心部では商店街や個人商店も少しずつ増えてきています。行政との連携も進んでおり工事により保留になっていた高田町中心部にも徐々に植樹できるようになりました。今期は嵩上げ地で念願の植樹が叶い、四二本の桜を植樹することができました。工事終了後には更に多くの桜が植樹できる見込みとなっております。このような行政との連携や地元参加者の増加は、当団体の活動においては大きなステップだと感じております。津波により消えてしまった桜のお花見スポットも将来多くの方がまた桜の下に集えるようになってくれることを願っております。

植樹本数が増えることにより、管理面での新たな課題も見えてきました。毎年四月以降はこれまでに植樹した桜の木を一本一本メンテナンスする「全箇所確認」を実施しています。剪定作業や肥料、病虫害の対策や鹿による食害の対策を施して回りますが、桜が成長するにつれ剪定の時間も要し、一日に回れる本数も少なくなりました。全箇所確認が終わらないという事態が発生してしまいました。加えて夏場に必須となる草刈作業は更に時間と労力を

消耗してしまう為、草刈り会メンテナンスボランティアの募集も継続しております。雨や台風で中止となった日もありました。今年度は二七一名の方々にご参加いただき、年々増加傾向となっております。その理由として、「過去に植えた桜をメンテナンスしたい、成長を見守りたい」という声を反映できたことが要因だと感じております。今後も支援者さまの意見に耳を傾け運営の充実を図れるように引き続き体制づくりを進めていく所存です。これからの動きとしては、人員不足を補うため、メンテナンス作業の外注を進める方針です。

本年度は試験的に市内の就労支援B型作業所である作業所さくらさまへ植樹地整備作業の依頼を行いました。実施にあたっては、日本郵政公社さまより「年賀寄附金配分事業」の助成をいただき、二十五カ所の植樹地を整備していただきました。スタッフの手の回らないところをカバーしていただき、「丁寧な作業で地権者さまからも好評でした。今後も桜の保全となり、就労支援にもなるこの取り組みを拡充していきたいと考えています。」

植樹事業では皆さまにご参加いただいている「春・秋の植樹会」の他に普及啓発の観点も兼ねて、子どもたちを対象とした「学校植樹会」も開催しています。その他に新たな試みとして「地元住民を対象とした植樹会」も検討中です。市民に愛される桜として、市民の手で管理する仕組みが出来ればと思います。震災の教訓を地域外の皆さまにも伝えていくためには、大きな災害を経験した地元住民とのつながりも重要と考えます。この教訓を被災地から被災地域外へ伝承し、最終目標である「災害によって人の命が失われない未来」へ向け今後も活動に尽力してまいります。



01) 桜を食し後ずさる鹿 02) 小学6年生との植樹会 03) 中心市街地かさ上げ後、初植樹  
04) 秋の植樹会集合写真 05) 植樹会に高田市民も参加

植樹会一覧

- 2018年 11月17日 秋の植樹会(第30回)
- 2018年 11月24日 秋の植樹会(第31回)
- 2018年 11月25日 理事植樹会
- 2019年 3月 9日 春の植樹会(第32回)
- 2019年 3月23日 春の植樹会(第33回)
- 2019年 3月24日 理事植樹会

植樹実績推移

2011年	34本 (18箇所)
2012年	376本 (100箇所)
2013年	647本 (161箇所)
2014年	766本 (188箇所)
2015年	932本 (201箇所)
2016年	1,088本 (228箇所)
2017年	1,324本 (268箇所)
2018年	1,420本 (284箇所)
2019年	1,575本 (314箇所)

学校植樹会一覧

- 2018年 11月 2日 岩手県立杜陵高等学校
- 2018年 11月 7日 一関市立桜町中学校
- 2018年 12月 5日 岩手県立住田高等学校
- 2019年 2月 27日 陸前高田市立米崎小学校
- 2019年 3月 1日 陸前高田市立気仙小学校
- 2019年 3月19日 岩手県立大東高等学校

累計参加人数

2011年	57名
2012年	697名
2013年	1,412名
2014年	2,143名
2015年	2,779名
2016年	3,535名
2017年	4,443名
2018年	4,779名
2019年	5,780名

※2019年3月末時点の植樹実績・参加実績になります。



私たちは、悔しいんです。

二〇一一年三月十一日、東日本大震災が発生し、一時間以内に東北各地を津波が襲いました。

陸前高田市でも多くの人が時間を止めました。

その後、「実は、今回と同規模の津波が三陸沿岸を飲みこんだ記録や痕跡がありました。」との、ニュースが流れていました。

十メートルを超える津波の可能性が、震災前から声高に叫ばれていたれば！

震災前の防潮堤には、限界があることを知らされていれば！

津波によって奪われた命は、もっと少なくて済んだのではないか？

その思いが、今も頭を巡ります。

私たちは、悔しいんです。

その思いを同じくする者が集まり、「桜ライン311」を立ち上げました。次の時代が、この悔しさを繰り返すことのないように、今回の津波の到達点を桜の木でつなぎ、後世に伝えたいとおもいます。

現在、瓦礫撤去が進み、津波の到達点がほやけ始めている今、一日も早く、やりたいんです。

でも、私たちだけでは、限界があります。皆さんの力を貸してください。お願いします。



六月三〇日をもちまして桜ライン311は期末を経て、七月一日より法人としての九期目を迎えることが出来ました。東日本大震災から丸八年が経ちますが、今もこうして事業を継続できていることに心から感謝申し上げます。昨年度の活動報告書を送りいたしますのでご覧くださいませ。

「私たちは悔しいんです。」

この陸前高田市の次世代に震災の教訓を伝え、私たちの悔しさを繰り返さないでほしい。その思いを胸にしたメンバーが集まりこの事業は始まりました。

陸前高田市の津波の到達地点一七〇kmに桜の並木を作り、その意味を後世に伝承していくこと。もし同規模地震が発生し、津波の被害が想定される場合は少なくともその並木から上に逃げてもらう。そうすることで、その時代の陸前高田の人的被害を軽減したいという事業です。現時点一五七七本、箇所にして市内三三三箇所、桜の苗木を植えてきました。初期に植えたものは随分と大きくなり、まだ控えめながら春に多くの花を咲かせ津波の到達地点を私たちに教えてくれています。

そして同時に日本全国の皆さまの命を守るものでもあって欲しいと私たちは願っています。自然災害の多発するこの国に住む人の覚悟として、未経験の方にも「自分ごと」と捉えてもらいそれぞれの生活の中で備えてもらうこと。そうすることで一人でも犠牲者を減らせたら。日本全国の皆さまと一緒に植えているのは、陸前高田に訪れ、その地点に立ち、東日本大震災の教訓を感じてもらえたらという思いからです。

毎年の災害も、百年に一度の災害も、そして東日本大震災のように千年に一度の災害も、それは等しく生活の中に潜んでいるもの。多くの犠牲を契機に私たちはそのことに気付かされましたが、被害に遭ってしまう前に気付いて欲しい。人的被害を発生させないことは経験した私たちの、東北の願いだと思っています。

そして同じくらい強く、多くの人に誇らしく、愛される桜並木にしていきたいとも思います。あの東日本大震災があったからこそ、私たちがいて、陸前高田があり、岩手があり、日本があるのだと思えるように。いつか全ての人がそう思えるようになることが、本当の意味での復興なのだと思います。

東日本大震災から時間が経過することに風化が叫ばれています。私たちが必ずしもそうではないと思っています。災害をどう捉え、どう備えていくか、その意識を持ってくださっている方は増えているように感じる瞬間もあります。

桜ライン311は多くの人の命が失われたことから生まれしました。そこに私たちの思いだけではなく、多くの皆さまが共感し支えてくださっていることこそ、この団体の価値があると私たちは強く信じています。この桜が未来の減災の仕組みとして、地域を彩る財産として育っていくように本年も事業を継続してまいります。

認定特定非営利活動法人 桜ライン311

代表理事 岡本翔馬

